

2019 年度

夏休み H1 ケンブリッジ大学研修 生徒報告書

2019 年 7 月 7 日から 7 月 13 日



date	day	am	pm	meals
07 th July	Sun	Arriving before lunch	Leave Rikkyo: 8:30 1:00 -2:15 Welcome to Cambridge (in Japanese) 3:00 for 3:30 Evensong (King's College Chapel)	L-K 12:00 D-K6:30pm
08 th July	Mon	English Lesson 9:30 -12 :15 - Grantchester / poem - Cambridge	Punting 2:45(45m) Booking ref	B-M8:00am L -X D-K 6:30pm
09 th July	Tue	English lesson 9:30 -12 :15 - Fitzwilliam worksheet - Formal dining / British food	Fitzwilliam Museum (visit individually)	B-M8:00am L x D-F*7:30pm
10 th July	Wed	English lesson 9:30 -12 :15 - Shakespeare	Free afternoon (Self-study?) 7:30 at St. John's A Midsummer Night's Dream	B-M8:00am L x D-K:Picnic at St John's
11 th July	Thu	English lesson 9:30 -12 :15 - A Midsummer Night's Dream Royal Family	Japanese Culture 2:00 -Tea :6 -Shamisen :4 -Flower arrangement :11	B-M8:00am L-K 12:30 D-K**6:30pm
12 th July	Fri	English Lesson 9:30 -10:30 - Grantchester / poem University Library 11:00-11:30	Grantchester 'The Orchard' 12:30	B-M8:00am L-Orchard D-K6:30pm
13 th July	Sat	Free time	Check out: 12:00 noon Leave Cambridge: 12:00	B-M8:00am

Meals

B-M = Breakfast at Murray Edwards College

L-K = Lunch at Kaetsu Centre

L-X = Lunch not provided

D-F* = Formal Dinner at Fitzwilliam College

D-K = Dinner at Kaetsu Centre

**Special night – Tsugaru Shamisen mini concert & Talk by Hibiki Ichikawa

List of the students (Summer in Cambridge) 7 to 13 July, 2019

H1-1	1	阿部 汐音	ABE Shione	F
H1-1	5	五十嵐 重建	IGARASHI Juken	M
H1-1	6	井上 くるみ	INOUE Kurumi	F
H1-1	10	紺谷 葉那	KONTANI Nana	F
H1-1	12	中澤 一貴	NAKAZAWA Kazuki	M
H1-1	13	西尾 愛梨亞	NISHIO Aria	F
H1-1	14	大倉 咲	OHKURA Saki	F
H1-1	16	ピアソン・キアラ 宇宙	PEARSON Chiara Sora	F
H1-1	18	佐藤 愛莉	SATO Airi	F
H1-1	19	清家 彩姫	SEIKE Ayame	F
H1-1	20	鈴木 隆太	SUZUKI Ryuta	M
H1-1	22	徳永 啓祐	TOKUNAGA Keisuke	M
H1-2	2	藤井 若香子	FUJII Wakako	F
H1-2	4	福島 理人	FUKUSHIMA Masato	M
H1-2	5	濱田 恵	HAMADA Megumi	F
H1-2	7	堀江 紗郁	HORIE Suzuka	F
H1-2	8	五十嵐 るい	IGARASHI Rui	F
H1-2	9	飯田 大智	IIDA Daichi	M
H1-2	10	飯島 圭織	IIJIMA Kaoru	F
H1-2	15	松本 宗一郎	MATSUMOTO Soichiro	M
H1-2	17	西 絵莉香	NISHI Erika	F
H1-2	19	諏訪部 真帆	SUWABE Maho	F

Male 7

Female 15

Teachers	関口 萌	SEKIGUCHI Moe	F	(7th July to 10th July)
	塩谷 知紘	SHIOYA Tomohiro	M	(7th July to 10th July)
	小坂 剛	KOSAKA Tsuyoshi	M	(10th July to 13th July)
	平塚 斐女	HIRATSUKA Ayame	F	(10th July to 13th July)

ケンブリッジ研修

H1-1 1 阿部汐音

1 日目： ・ ケンブリッジ大学について ・ Evensong

この日は来たばかりの初日ということでケンブリッジ大学についての説明をしていただきました。ケンブリッジ大学はたくさんのカレッジの総称だということに驚きました。また有名なコーラスの方々が聖歌を歌っている礼拝にも参加することが出来ました。すべてが今まで体験したことのないことでこれからの一週間が楽しみになったことを覚えています。

2 日目： ・ ケンブリッジ大学 ・ ポエム ・ パンティング

この日はケンブリッジの大学について引き続き学びました。英国の先生だったので英語が理解できるか不安な面もありましたが理解しやすいようにわかりやすくしゃべっていただけたのでたくさんのことを吸収することが出来ました。詩を作るのは難しかったけれど考えてみると色々な単語が浮かんできて楽しむことが出来ました。午後のパンティングでは終始楽しむことが出来、すごく良い思い出にすることが出来ました

3日目：・ヒエログリフ・絵・fitzwilliam museum・formaldining

この日はとても面白い先生からヒエログリフの成り立ちや昔の絵について学びました。もともと私は絵画に興味がありませんでしたが、ひとつの絵から生まれる疑問や発見を考えていくとどんどん新しい見方が加わりすごく面白かったです。また夜の食事ではきちんとしたテーブルマナーについて学びました。これから先社会に出ていくうえで絶対に必要なことだと思うので忘れないようにしたいです。

4日目：・シェイクスピア・真夏の夜の夢

この日はシェイクスピアについて学びました。名前は知っていたもののどんな人か全く知らなかったのでいい機会になりました。すごい才能を持っていたんだなと感じました。

夜は野外劇場の真夏の夜の夢を鑑賞しました。近くで観る演技は英語が理解できなくても伝わってくる感情と情景があり圧倒されました。最初から最後まで夢中になりました。すごく面白かったです。

5 日目：・ロイヤルファミリー・劇

この日はシアターでロイヤルファミリーについて学びました。

イギリスに住んでいながらもなかなか学ぶ機会がなかったので大きな知識になったのではないかと思います。ダイアナ妃については以前から少し興味があったので家でも調べてみたいです。

自分たちで行う劇は英語で台本を読みながら感情を込めるのが難しく苦戦しましたが、皆と作り上げるのがとても楽しく新たな一面を発見することもできた気がします。

6 日目：・プレゼンテーション・アフタヌーンティー

この日は今まで学んだことを2グループに分かれてプレゼンテーションをしました。準備する時間があまりなかったので大変でしたがそれぞれ感じたこと、学んだことはたくさんあってそれを共有でき、良かったと思います。アフタヌーンティーでは英国の文化を体験出来、思い出深いものになりました。また席が隣だったピーターさんからお聞きするお話は、これからの生活を頑張ろうと思えるような活力を貰うことが出来たような気がします。

私はこの研修を通して本当にたくさんのことを学び、それを吸収することが出来たと思います。

最初はあまり何も考えずに参加しましたが、日を追っていくごとに先生方の授業が面白く感じるようになって自分から色々な疑問を持つことが出来ました。

また同時にこのような体験をできる環境を作ってくれたピーターさん一家、かずこさん、先生方、親に感謝の気持ちが生まれました。

このような素敵な体験は誰でもできるわけではないと改めて気づき、決して忘れてはいけないことだと思います。

すごく楽しく充実した1週間になりました。

ありがとうございました！！

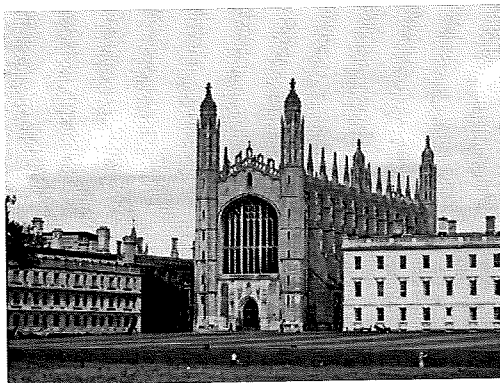


「University Of Cambridge」。これまでは本で写真を目にするくらいで、誰もが憧れる世界最高峰の大学のひとつとしか捉えていませんでした。しかし今回こうしてケンブリッジへの研修に参加できたことで、これまでより身近に、そして一層大きな存在であると感じられました。

今回の研修で感じたことがいくつかあります。

一つ目は、大学に限らず、ケンブリッジの街に関してです。全体的に見て歴史が古く、昔からある建物の間を縫うように道ができていて、ところどころ道が狭くて不便だと感じた場所もありましたがそれをただ単に不便だと感じてはいけなかったと思います。日本は歴史的に重要な建造物でない限り、

SCRAP & BUILDの文化であり、物件を購入する際も新築が好まれますが、イギリスを含むヨーロッパの国の多くではKEEP & REPAIRの文化が浸透し、古い建造物の方が価値が上がるらしいです。昔に建てられた家が、今でもしっかり機能し、生活を支えていることもすごいです。現代の人々が多少の不便を許して使っていく精神に驚きました。また、大学を中心とした町で若い人が多いはずなのに、あまり治安の悪そうな地域が構成されておらず、とても住みやすそうな街だと思いました。



二つ目は、ケンブリッジの観光業の一つに数えられる、パンティングについてです。パンティングと言いつても、今回体験した観光ツアーなどのためのパンティングや、ヴェネツィアに代表される一つの交通手段としてのパンティングなどがあります。ケンブリッジのパンティングには前者のイメージが強いですが、中心部から2マイルほどケム川の上流へ行ったところにあるグランチェスターという町へパンティングで行くなど、後者としての顔も持っているそうです。前まで住んでいた横浜の家もみなとみらいに近かったのですが、あまり水上交通は盛んでなかったのも、水上交通は川や海の違った使い方だと感心を持ちました。

三つ目、それはシェークスピアの真夏の夜の夢を鑑賞しに行った時のことです。英語の内容がすべて理解できたとは言えないのに劇を見るとその役者の身振り手振りや表情、声のトーンなどで心情や起っていることが何となくですが伝わってきました。後

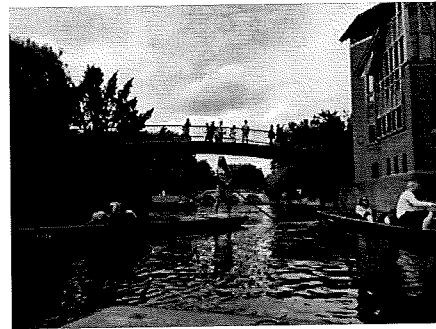
になって気づいたのですが、言葉を使用しないで相手に物事を伝えることができるというのは驚くべきことでもあります。人に物事を伝える際に、伝える要素のうち言葉の意味はほんの7%に過ぎないということと結びつけるとそれができなくてはならないという考え方もできます。自分が人に伝えようとしていることの93%は言葉の意味によるものではないということを念頭に置き、これからの普段のコミュニケーションに活かしていきたいと思いました。また、この劇をケンブリッジ大学のカレッジの一つでやるから学生が演じるのかと思っていたのに演じる人たちが自分の想像する大学生の年齢ではなかったのも、どこかの演劇を職業にしている人たちが公演しに来たのかと勘違いしていました。のちに先生に聞くと、最初の考えは間違っていなくて、役者のほとんどがケンブリッジ大学の学生であることを教えてもらいました。これはイギリスに限った話ではないと思いますが、年齢の大きく離れた人を同じ場所で学ぶ仲間として自然に認められるのは、高校や中学校ではあまり見られない大学ならではの特徴だと感じました。

その他アフタヌーンティーやプレゼンテーションなど、人生で初めての体験や初めて知ったことが多く、なかでも印象に残ったのは生け花とフォーマルディナーです。生け花をやる前、立教にいたるとき一度だけフラワーアレンジメント部の活動に参加したことがあり、その時は硬めのスポンジのようなものに花をさしたのに対し、今回の生け花では、剣山と呼ばれるものに花を立てていきました。また、フラワーアレンジメントと生け花の違いとして、使用する花の本数がよくあがるそうです。確かに考えてみると、使用される花が少ない生け花も、ひとつひとつに力があり、3本で大きな存在感を示していました。フォーマルディナーでは、食事大変良いものでしたが、それ以上に立教のように焦る必要なく、ゆっくり話しながら食べれたことに楽しさを感じました。さらに隣がピーターさんだったため、英語でいくらか会話ができ、話が伝わった時の達成感を覚えることができました。

今回のケンブリッジ研修のプログラムを事前に見たとき、いくつかあまり気がのらないものもありました。具体的に言えば、日本文化を学ぶことやシェークスピアの劇を鑑賞しに行くことなどがこれにあたり、自分はこれらを勝手につまらないと決めつけていて、食事と言う食わず嫌いをしていました。しかし、実際に活動に参加してみると夢中になってしまい、時が進むのを忘れるくらいでした。これからは自分の持っているイメージだけで物事を捉えてしまわないように気を付けていこうと思います。

ケンブリッジに行っていた一週間を自分の中で充実した時間の基準として決めました。今後の活動では、これを基準として、できる限り密度の濃い時間を過ごしていきたいです。ケンブリッジで過ごした時間は本当に有意義なものだったと思います。ありがとうございました。

(2136文字)



夏期プログラムで一週間、ケンブリッジ研修に行った。

今まで大学とはどういうところで、何をどのように勉強するのか全然知らなかった。

大学の説明で、大学では先生と生徒がお互いに意見を出し合って答えを一緒に探していくと聞いて少し驚いた。

今まで私が受けていた授業というのは、先生に一方的に教えられているように感じていたからだ。

学校では、生徒が先生が黒板に書いたことをノートにうつして、教科書の読み上げを聞くことが普通だと思っていた。

大学では、「自分の意見」をしっかりと持ち、「人の意見を受け入れる」ことがとても大切だということが分かった。

授業では、ケンブリッジの有名著者や偉人を知ることができた。

有名卒業生を調べてみると、私の好きな「ナルニア国物語」という映画の白い魔女役のティルダ・スウィントンもいた。

ロバートさんの授業で聞いた「knowledge is power（知識は力なり）」という言葉は心に響いた。

また、授業だけでなく、シェイクスピアの劇を見に行って自分たちで演じたり、ポエムを作ってみんなの前で発表したり、生け花を体験した。

みんなの前で自分を表現するというのはとても難しいことなんだなと思った。

実際に見に行ったシェイクスピアの劇は、台詞を聞き取ることは難しかったが、役者さんたちの表情が豊かで、聞き取れなくても楽しむことができた。



楽しみにしていたケム川のパンティングや、アフタヌーンティーなど、イギリスの美しさに触れられる体験もできた。

ケム川のパンティングでは、ケンブリッジの美しい自然や古いコレッジを見ることができた。

アフタヌーンティーは、今回の研修での楽しみのひとつだったので心から楽しむことができた。イギリスのケーキは大きくて、とても甘くて食べきれなかったが、出てきた紅茶がとても美味しかった。



毎日少しずつあったケンブリッジ内での自由行動もいい思い出になった。
お昼ご飯は毎日、屋台で食べた。いろんな国の料理を食べることができて楽しかった。
ごはんの後はショッピングモールでお買い物を楽しむことができた。
外を歩いていると、英語がたくさん聞こえて、いい刺激になった。
ケンブリッジ大学の美術館にも行った。
絵を見ることが好きなので、絵がたくさん展示してある部屋を見ることができてよかった。

今回のケンブリッジ研修では、大学についてだけでなく、
ケンブリッジの歴史を学べたり、実際にケンブリッジをゆっくりみることができてとても楽しかった。
高校卒業後の進路はまだはっきりと決まっていないし、
どのような大学があるのかもよくわからなかったが、研修で
大学はどのような場所か学べてとてもいい機会になった。
ケンブリッジは緑もたくさんあるし、街のほうにいけば色々なところがあるし、
長い歴史を持っていて、知れば知るほど面白かった。
高校の三年間で、今回大切だと学んだ「自分の考え」をしっかりと持っているような人になることを目標にして頑張っていきたいと思う。

研修1日目ひろ子さんの授業でケンブリッジ大学について知った。ケンブリッジ大学には160か国以上の国から学びに来ている留学生がいると知ってとても驚いた。また半分以上がイギリス以外の国から来ていて、中国出身の人が多いと知った。様々なバックグラウンドを持つ仲間と共に学ぶことで多種多様なものの見方や考え方などを知ることができる。

研修2日目ケンブリッジ大学出身の有名人について学んだ。ケンブリッジ大学はたくさんのノーベル賞受賞者90人を出しているとても優秀な大学である。そんな素晴らしい大学の卒業生に映画「ファンタスティックビースト」主演のエディレッドメインもケンブリッジ大学出身だと知って驚いたし、とても親近感がわいた。

研修3日目ヒエログリフとイギリスの食べ物について学んだ。フォーマルディナーを体験した。テーブルマナーはいつも立教で学んでいるので困らなかった。コースで頂くことも日常とは少し違って、とても新鮮だった。

研修4日目イギリス出身のシェイクスピアについて学んだ。シェイクスピアはたくさんの有名な作品を作っていると知った。また夜は、ミュージカル「夏の夜の夢」を観た。劇場で見ると思っていたが野原で見るとなるととても臨場感があふれ、とてもリアルな劇を見ることができた。また作品を学ぶ上で作者についての知識はとても重要で人生がどのようなものであったかを知ることによって作品に与えた影響なども見えてくると学んだ。今回「夏の夜の夢」がとても面白かったのでこれを機にシェイクスピアのほかの作品にも触れてみたい。

研修5日目ロイヤルファミリーについて学んだ。ロイヤルファミリーの歴史や家系図について知った。日本でもエリザベス女王やチャールズ皇太子、キャサリン妃などのニュースは伝えられ、イギリスに来てからもヘンリー王子とメーガン妃の赤ちゃんのお誕生のニュースを見たばかりで、アウティングで訪れたマダムタッソーでは実際に会えたかのような写真をとった。そして更にこの授業の二日前には偶然ケンブリッジに訪れたエリザベス女王の姿を見ることができた。あのまぶしいピンク色の服を着た女王様のことはずっと忘れないだろう。

またその後は「夏の夜の夢の劇」をみんなでやった。色々可愛い衣装を用意して下さっていて、とても楽しかったし、「夏の夜の夢」の台本が頭に入ってきて、内容もしっかり理解できた。

また日本文化についても学んだ。生け花を体験した。生け花の仕組みについてどうやって生けるか教えて頂きすこしだけ知ることができた。また三味線を習った友達が短時間でできるようになってすごいなと思った。日本人として外国の人達に日本の文化を紹介できるよう、興味や関心を持って過ごしてくれば良かったなと思ったけれどこれを機に挑戦してみたい。

研修六日目ケンブリッジ大学にきて驚いたことについてプレゼンテーションをした。私たちが発表する内容は、ケンブリッジの施設について、ケンブリッジに関連する有名人、シェイクスピア、ケンブリッジ大学周辺のお店について発表した。私と五十嵐さんは、ケンブリッジ大学周辺のお店について発表した。準備時間が足りなくて、パワーポイントをまとめきれなかったが、発表の台本を暗記して発表出来たので少しだけ達成感があった。次また発表する機会があるので次は今回の反省を生かしてもっと完成度の高いプレゼンテーションを出来るようにしたいとおもった。

6日間の研修を通して4月から過ごしている英国についてまた新しいことを知ることができた。

世界中から優秀な若者が集まるこのケンブリッジで研修を受けて、自分もこれから

たくさんの知らなかったことを学んでいこうという意欲もわいてきた。

そして貴重な講義の内容をもっと理解したかったという悔しい思いもプラスに変えられるように日々、英語の勉強、特にリスニングや語彙を増やすことに努力していこうと思った。

以上

ケンブリッジ研修 感想文

中澤 一貴

今回、僕は立教英国学院に新入生として入学・入寮して初めてのサマーイベントに参加しました。最初のサマーイベントの選択の時にホームステイにしていたのですが、ハーフタームの時にケンブリッジ研修を行った元メンの感想を聞いて自分もケンブリッジ研修に行こうと思い選択しました。そしてケンブリッジとはどういうところなのかを詳しく聞き、興味がわきました。今思うとケンブリッジ研修にしてよかったと実感しています。

自分がケンブリッジ研修に行く目的は、そもそも世界トップレベルのケンブリッジ大学に行けるのは一生に一度あるかないかのレベルなので、このイベントを機に行かせてもらおうと思いました。そして一週間の間でそこで色々なことを経験し感じようと考えました。

一日目、マリーエドワードカレッジの隣の研究生の宿泊施設カエツセンターに到着しました。またケンブリッジ内や各カレッジの生徒数、その他色々な説明をしてもらいました。夕方には教会に行きました。とても神聖でした。

二日目からイングリッシュレッスンは始まりました。オールイングリッシュだったので頑張って聞き取りました。昼は自由行動でした。アダムさんに案内してもらいました。ケンブリッジの景色に感動しました。

三日目は朝にイングリッシュレッスンを受け、昼からはミュージアムに向かいました。向かってるときにすごいことが起きました。なんと現エリザベス女王を見ました。すごかったしこれまた感動しました。ミュージアムは有名な絵画がありました。色々すごすぎて頭が追いつかなかったです。夕飯はフォーマルディナーこれまたすごい経験でした。

四日目はシェイクスピアの劇を見ました。迫力満点でした。そして自分達も劇をしました。

五日目は午後から日本文化体験でした。自分は三味線を選びました。二時間の練習を受け、皆の前で発表をしました。緊張しましたが、上手くできて良かったです。

六日目は二日前から作ってきたプレゼンテーションを発表しました。昼からはアフタヌーンティーでした。美味しかったし美しかったです。

これですべての行事が終わりました。とても楽しかったし、貴重な経験ができて良かったです。ありがとうございました。

今回、私は7月7日から13日までの1週間、夏のケンブリッジ語学研修プログラムに参加させて頂いた。参加するにあたり、私は「英語力を高める」「異文化に沢山触れる」という自分なりの目標を持っていた。

1日目。ケンブリッジ到着後、1週間お世話になる嘉悦センターのRobertさんお二方にご挨拶をした。私は、ケンブリッジ大学内にこのように特別携帯で日本の学園が経営する建物があることに大変驚いた。午後は、Great St Mary's Churchでchoirの演奏を聴いた。私はchoirの演奏にとっても興味があり、楽しみにしていたので、生で歌声を聴けて感銘を受けた。また、中学3年生の時の英語の教科書でイギリスに関する内容を扱っていたということもあり、教科書で見た街並みを実際に自分の目で見ることができ、とても嬉しかった。夕食は嘉悦センター内の食堂で頂いた。調理師の方が日本人で、とても美味しい日本食を作ってくれた。

2日目。午前は、GrantchesterとPuntingについての講話を聞いた。そして1人ひとり、自由なテーマでpoemを書いた。午後はPuntingで、ボートに乗りケム川を往復した。昨日訪れた教会や、ケンブリッジ大学の多くのカレッジを様々な方向から眺めることができ、とても楽しむことが出来た。川に鴨が泳いでいたり、川沿いに牛がいたりケンブリッジの自然も感じる事が出来た。

3日目。午前中の授業は、HieroglyphicsやBritish Food、Formal Diningについて学んだ。先生がホワイトボードにスラスラとヒエログリフを書いていたことに驚いた。以前、世界史の授業で習ったヒエログリフとは形が少し異なっていて、色々な形があるのだと分かった。イギリスの料理では、日本のものとは異なる様々な料理があって面白いと思った。立教の食事でも出たことがないものが沢山あって、どんな味なのかとても気になった。昼食を市内で頂いた後、The Fitzwilliam Museumを訪れた。キリスト教関連の絵画や油絵が多かったように感じた。特に、イエス・キリストが十字架に架けられる絵が印象的だった。私は本格的な美術館・博物館を訪れたことが無かったので、新しい経験をすることが出来た。夜はFitzwilliam CollegeでイギリスのFormal Dinnerを体験した。日本のコース料理のマナーと少し似ていると思った。

4日目。授業ではShakespeareについて学んだ。私は彼の作品をあまり読んでいないので読んでみたいと思った。午後は明後日のプレゼンテーションの発表準備と明日の劇の台本の読み合わせをした。夜はSt John'sでA Midsummer Night's Dreamの劇を鑑賞した。前知識が全く無かったので、あまり内容理解が出来なかったが、約10人で何役もやりながら劇が成り立っていたことに感動した。今まで見たことのない表現の仕方で惹き込まれた。

5日目。午前はA Midsummer Night's Dreamの立教生versionの劇を上演した。準備期間が短かったのでグダグダの劇になってしまったが、昨日観た劇を自分達でやることで、更に内容理解が深まった気がした。授業ではRoyal familyについて学んだ。現在の日

本の皇族とは違って、女性もトップになれるということが凄いと思った。午後は3つのグループに分かれて Japanese Culture の体験をした。私は茶道を体験した。中学2年生・3年生と茶道部に所属していて、今回と同じ裏千家の作法だったが、御手前の仕方が全く異なっていて新たな発見となった。また暫く茶道を経験していなかった為、短時間の正座も苦痛に感じた。夜は、市川響さんの津軽三味線の演奏を聴いた。弦が3本しかないのに、色々な演奏法で沢山の音を出すことが出来るということが素晴らしいと思った。

6日目、研修最終日。午前中は、今まで空き時間を割いて頑張って作ったプレゼンテーションを2班に分かれて発表した。私たちA班は、ケンブリッジの良いところを5つに分け、日本と比較しながら良さを発表した。B班もなかなか面白い発表だったと思う。また、2日目の研修でそれぞれが考えた poem の発表をした。とても個性的で、聞いていて面白かった。昼食は The Orchard で Afternoon tea を頂いた。本場イギリスで Afternoon tea を体験できて嬉しかった。

この1週間、あっという間だったが、ケンブリッジ研修でしかできない貴重な経験を沢山させて頂くことができた。自分自身の目標であった、英語力を高めることと異文化に触れること。英語は、食事の注文や会計の聞き取り等、ケンブリッジ市内の観光で使う機会が多かった。プレゼンテーションでは、英語が得意な友人に頼ってしまうことが多かったのも、もっと英語を勉強すべきだと思った。

ケンブリッジで生活していると、自然と異文化に触れる機会は多かった。イギリス文化に沢山触れるとともに、Japanese Culture では日本ならではの文化の素晴らしさや良さを実感した。最終日に嘉悦センターの寛子さんは、「1週間前、初めてこの場所に来た時とは皆さんは明らかに表情が違って生き生きしている」と仰って下さった。ケンブリッジでの1週間は、私の考え方や学びを更に豊かにしてくれたと感じている。研修で得た学びを今後の人生の糧とし、皆と分かち合っていきたい。最後になってしまったが、このプログラムを考案して下さい先生方、嘉悦センターの方々、共に良い思い出を作ってくれた仲間達に心から感謝したい。

ケンブリッジ研修で学んだこと

1 年 1 組 1 4 番 大倉咲

私は今回のケンブリッジ研修で様々なことを学ぶことができました。その中でも、心に残ったことをいくつか挙げたいと思います。一つ目は、ケンブリッジ大学内で、ケンブリッジ大学出身の著名人のことを学ぶということです。私たちのプログラムは、一週間のうち午前中、毎日授業がありました。その授業内容は、主にケンブリッジ大学を卒業した著名人や、ケンブリッジの地域で有名な活動について、ケンブリッジ内の博物館についてなどでした。シェイクスピアについて、イギリスの食べ物について、フィッツウィリアム博物館の展示物にの時代背景など様々なことを学ぶことができました。ですが、授業の内容を学ぶこと以外に、別のことを学ぶことが出来ました。ケンブリッジ大学で、シェイクスピアやイギリスの朝食などを学ぶということは、その土地でしか出来ない事です。学ぶことに対して整った環境、その人物がこの土地だったから得ることができたものなどを実際まじかで見たり、体験したりすることができます。その点が、今回の研修で大切なことではないかと思いました。二つ目は、イギリスの地で、日本文化を学ぶということことです。わたしたちは、研修 5 日目に、ジャパニーズカルチャーを学ぶというプログラムがありました。内容は3つあり、茶道、生け花、三味線のうち一つを選んで体験するというものでした。わたしは生け花を選択しました。生け花は、このケンブリッジ研修で宿泊させて頂いた、嘉悦センターの職員の方に教えて頂きました。今回の生け花では生花正風体を学び、そのあと生花正風体か自由花を選択して花をいけました。生け花は花の本来の姿を大事にするので、あえて虫に少し穴をあけられていたり、少し枯れていても、その姿を美しく見せる形を考えることが大切ということを学びました。それを、イギリスで学ぶから意味があると感じました。イギリスで学ぶことでさらにこのような精神をもっと尊重し、大切にすることができました。そこに新しい目的あると感じました。今回の研修はすごく意味のあるものになったと思いました。

私は、ケンブリッジ研修で色々な事について学ぶ事が出来ました。ケンブリッジ大学の事や、ケンブリッジの町の事など学びました。

実は私の母は大学時代に、ケンブリッジ大学のトリニティ大学で量子物理学について一学期間学んでいました。私は、母が学んだ所の事を学ぶ事が出来てとても幸せでした。例えば、トリニティ大学から沢山のノーベル賞を取った人が出ている事や、スティーブンホーキングさんやチャールズ皇太子などの有名人もその大学を卒業している事を知りました。私は、それらの事を知る事によって、母がどれだけすごい大学にいたのかがわかりました。また、授業の一つでスティーブンホーキングさんについて教えてもらったのですが、私は彼がビッグバンを発案した人だったなんて知らなかったです。そして、母はトリニティでここまですごい人から教わっていたという事を知った時、やっぱり私は大学の凄さももちろんだが母の凄さにも痛感された。私は、この研修を通してケンブリッジ大学についてもっと知るべきだと考えました。母が通っていたケンブリッジがどんな所なのかこれからもっと学んで行きたいと思いました。また、プレゼンの内容の一つも東京とケンブリッジを比べる事でした。比べる事によって、東京の大学には寮が少ないため外国から訪れてくれる外国人が少ない事などを発見する事が出来ました。

また、私はケンブリッジの町についても色々学びました。ケンブリッジの町と良い所は学生が多くいるため学生に優しい事や、治安が良い事。また、理系の生徒が多らしくケンブリッジのテクノロジーは最新の物が多らしい。そんな良い事が沢山詰まっている町がケンブリッジなんだと言う事がわかりました。私は、日本とニューヨークに住んだ事があるので、学んでいる最中色々な所と比べる事が出来て、非常に楽しかったです。ケンブリッジでのプレゼンテーションの時、西尾アリアとケンブリッジの町について話した事もあります。ケンブリッジの町についてもっと知りたいなと好奇心が湧くようになりました。

そして、ケンブリッジ研修での授業だけではなくアクティビティーからも様々な事を学ぶことが出来ました。例えば、生け花やシェイクスピアの劇や街中を自由時間の時に歩くだけでも勉強になりました。生け花では「真」、「福」、「体」と言う三つに分かれる事を知りました。またこれらの事を生花正風体というらしく天・地・人に例えているらしい。生け花をする事によって性格がわかる気分になりました、大胆な人がいたり、スッキリしている人がいたり、意外な形をしている人がいたり、生け花を通して友達の性格をもっと知る事が出来たと感じました。また、シェイクスピアの劇を見るだけではなくやる事によって、シェイクスピアの作品を知る事が出来ました。ぼんやりとしていたシェイクスピアのイメージがはっきりしました。彼の作品の特徴は色々な人の人間関係がこじれていく事だと言うことや、詩などでも売れていた事などなど知りました。そして私は、シェイクスピアがなぜ行ったこともない国の話を書けたのかが今でも気になっています。シェイクスピアについてももっと知っていきたいと考えるようになりました。また自由時間の時など教会を見る事が出来たり、エリザベス女王を見ることが出来たりして、貴重な時間を過ごす事が出来ました。

私は、この体験を通して興味が持てる物が増えて非常に幸せです。もっともっと、ケンブリッジの事や、大学の事や、シェイクスピアの事など学んでいきたいと思いました。貴重な体験をさせていただいてありがとうございました。

今回の研修で私は、一つ一つの体験を通してと、研修全体を通して学んだことがあります。

《初日の授業で学んだこと》

初日の授業で、私は物事を勉強する上で何が必要なのかを学ぶことができました。

ケンブリッジ大学は、先生や周りの言うことを 100%鵜呑みにはせず、そしてそれらの意見に対して受け身にならず、積極的に思考する。そしてその内容をしっかりと発言し、互いに理解や議論を深め合える生徒を求めているそうです。そのために、授業は先生と生徒が意見を交わしながら進めて行くそうです。

日本では、生徒の発言を生徒が疑ったり、「それホント？」と議論が始まることはたまにはあるかもしれませんが。けれども、先生の授業で言ったことを鵜呑みにせずそこから自分で思考するということは、個人的にはあまりないように思います。そしてまさに授業中、ケンブリッジ大学が学生に求めていることの必要性を、すぐに感じられた個人的な出来事がありました。

私は普段から、あまり授業中に積極的に発言する事はありません。けれども何かの気まぐれで、ひとつだけ浩子さんの質問に答えました。それは、「ケンブリッジ大学はどのような生徒を求めているのか」でした。ケンブリッジの学生は様々な国で育った人々がいるという話を少し前に浩子さんがしていたので、私は「様々なことを受け入れられる生徒」と答えました。すると浩子さんは「それも正しいけれど、それだけでは足りない」と返しました。そして、「受け入れて、自分で思考して、さらにそれを外に発言できる生徒」と答えを言いました。

それを聞いた私は、とても驚きました。浩子さんが言ったことにではなく、自分には今まで「思考した後どうするか」という考えが全く無かったということに気がついたからです。それは結構な衝撃で、大げさかもしれないけどなんだか自分の世界が少しだけ、広がったような感覚さえしました。

自分で思考するだけ思考して、それを外に出さずに自己満足している内には、深く学ぶこともできないし、自分の世界を狭めるだけだという事を知ることができました。

《6 日目の English Lesson で学んだ事》

6 日目の English Lesson では、イギリスの王室について勉強しました。

私は初日から 6 日目までの間に、「何故人は学ぶのだろうか」という疑問が沸いていて、それについてずっと考えていました。もしかしたら、その答えは日本の大学を出たのに、それでもケンブリッジ大学でもう一度学んだ浩子さんなどに直接聞けば、答えはすぐにわかったかもしれませんが、一週間もあるのだから自分でそれからの体験を通して考え

てみようと思いました。

そんな中で受けた授業だったのですが、とても面白かったです。まず、王室の人達が意外とドロドロしているというか、生々しいし、先生が皆を舞台にあげて分かり易いようにリアルに説明してくれたので全てが英語でもわかりやすくて、すぐに引き込まれました。

そして授業が終わった後には、王室についてググっていました。

多分、先生が私達に教えたかった事は王室のゴシップでもないと思います。けれども、それを教えてくれる事で私は自分から王室について、興味を持てました。おそらく王室を知るという事は、イギリスの歴史、文化、人々への理解の入り口になるようなものだと思います。もし先生がそんな面白い授業をしてくれなければ、私はそれらに興味を持つことも、もっと知りたい、勉強したいという気持ちにもならなかったと思います。

「好奇心ってこういう気持ちで、これが学ぶ原動力になるのかもしれない」と思いました。

《三味線公演で学んだこと》

三味線の先生(お名前を忘れました)は、「何故イギリスに来て三味線を演奏しようと思ったのか」という誰かの質問に、「元々イギリスのファッションに興味があって、そんな国で自分の好きな三味線を引けたらどれだけ楽しいかと思ったのがきっかけだった」的な事を答えてました。

多分、外国で暮らすというのは相当大変な事だと思うし、不安も大きいと思います。けれども、好きな事のためにそれをやってのけて、しかもそれが成功しているというのは、とてもすごい事なのだろうと思いました。そして動機が、「興味、好奇心」とであるところ、6日目の授業と繋がりました。私は、興味や好奇心は勉強だけではなくて、全ての物事のとても強い原動力になるのだという事を知ることができました。

《研修を通して》

今回の研修で学んだ事は、もしかしたら頭のどこかで知っていたことかもしれないし、当たり前のことかもしれません。けれどもそれを頭でただ知っているのと、気持ちの深いところで実感するのでは大きく違うと思います。後者を体験できた今回の研修は、これからの勉強や、生きていく上で何かを選択しなければいけない時に、大きく役立つと思います。

貴重な体験をさせてくれた先生方、本当にありがとうございました。

ケンブリッジ研修を終えて

21, 7, 2019

H1 - 1 (19) 清家 彩姫

今回私は、2019年7月8日～13日夏季プログラムであるケンブリッジ大学での研修に参加しました。

主なプログラムは、講師の先生のお話を聞いての授業でしたがその授業で

- ・ケンブリッジ大学で求められる考え方
- ・ケンブリッジ周辺にみられるイギリスの歴史について
- ・エジプトの文明について
- ・イギリスの食事について
- ・シェイクスピアについて
- ・ロイヤルファミリーの歴史について

など、様々なことを知ることができました。ほかにも、punting や劇鑑賞、afternoon tea などイギリスならではの体験をすることができました。

この研修で最も心に残っていることは、浩子さんによる初日の授業で、浩子さんが「世界目線で見ると、バイリンガルでないことはマイノリティーなんだよ。」とおっしゃっていたことです。私は今まで二か国語話せればそれで十分だと思っていたので、その言葉を聞いてとても衝撃を受けたと共に、今知れてよかったと思いました。また、マレーシアや中国をはじめとした世界の小学校、中学校、高校生は様々な言語を習得できる環境にあるということを知り、日本には“国際バカロレア”という制度があったり、留学制度が整っていたり昔に比べるとグローバル教育が進んでいるので世界と比べても普通であると思っていました。が世界目線で見るとまだまだだということに気づかされました。

また、ケンブリッジ大学内のカレッジについてのお話もとても印象に残りました。日本の大学との仕組みの違い、カレッジの数、有名な卒業生など多くの驚きがありました。ケンブリッジ大学の歴史の中で女子生徒のみで構成されるカレッジができた経緯についてのお話がとても印象強く、女子カレッジができるほどに当時女性に対する扱い、特に勉強する自由などが今に比べてとても悪いものだったということ。また、たとえ大学に入学できたとしても卒業資格をもらえなかったということがあった、などなど様々な差別があったことが、とても意外に感じました。なぜなら日本でも最近話題になる LGBT や男女差別などの考え方が、世界でもトップクラスに位置しているケンブリッジ大学に根付いていたこと、そしてその考え方が長い歴史の中でつい最近まであったなんて考えもしなかったからです。しかし最近になって女子カレッジにトランスジェンダーの人を受け入れたり、カレッジによっては女性の比率のほうが多くなっているなど差別があったといっても日々進化しているように感じました。

今回のケンブリッジ研修では一週間を通して興味深い話をたくさん聞くことができた上に今まで知らなかった言葉や様々な考え方を習得できました。また、聖書がすべてだった世の中に“critical thinking”の考え方などから200年前に生まれた“Cambridge Philosophical Society”や、今までに100人近くのノーベル賞受賞者を輩出したりとケンブリッジ大学のすごさを改めて感じました。私が将来海外の大学に進むことがなかったとしてもいろいろな考え方や海外と日本の差など今まで知らなかったことを知ることができ、とても有意義な一週間になったと思います。一週間、ほぼ毎日イギリスの町中に出て自分たちだけで食事をしたり買い物をしたりアウトティングとは違う雰囲気を楽しむことができるなどとても充実していて、ケンブリッジ研修に参加する機会はないだろうけれどこれからも様々なプログラムに参加したいと思いました。

ケンブリッジ研修で学んだこと 鈴木隆太

今回のケンブリッジ研修は、とてもためになることが多数ありました。

喋ることだけでなく、聞く力も付きました。

まず、喋ることです。今回はケンブリッジという英語の街に出てご飯を食べたり、

買い物をしたりと、日本ではできないことがほとんどでした。

例えば、注文はもちろん英語です。ほかにもお店に入ると、店員に質問されたり、

町にいる人に話かけられたり、自然と英語をしゃべる機会がどんどん生まれてきて、とても面白かったです。しかし、自分の英語に自信が持てておらず、

外国人と喋る時は毎回のように不安や緊張がありました。

しかし、ケンブリッジで過ごしていくうちにその不安や緊張は晴れていきました。英語は完璧でなくても相手に通じ、理解してくれたからです。

多分このケンブリッジ研修がなかったら、外国人と喋ることに対しての不安や、緊張は晴れていなかったと思います。そこに関して、これから英語を話してい

くには大切な外国人との交流がしやすくなり英語の上達にひと押ししてくれるものになったんじゃないかなと思います。

またさっきも言った通り話すことで自然と聞く力も身に付きました。

自分は話すことより聞くことのほうが自信があり、今まではとりあえず聞いて返答することができていました。

しかし、この研修でまた聞く力の未熟さも知りました。

それはケンブリッジの街だけでなく、カエツセンターの中でもでした。

もちろん町は英語であふれかえっていて、聞くことが多かったのですが、カエツセンターではピーターさんはもちろん全部英語なため、話を理解するのにしっかりと聞かなければいけませんでした。またピーターさんはとても友好的な人で、向こうから話しかけてくださいました。そのためカエツセンター内でも多く英語を話せました。他にも授業も外国人だったので、よく注意して聞きました。むこうの方も少しゆっくりめに喋ってくださったのでわかりやすかったです。また午後の体験で、劇を見に行った時、全部英語でとても戸惑い、なかなか内容を理解しづらかったのですが、事前の授業、劇発表に練習があり、何とか理解できました。これは自分が思うに一番ためになったんじゃないかなと思います。

僕は人の前に立って発表などあまりしたことがなく、正直プレゼンテーションがうまくいくかととても不安でした。しかし、みんな特にBグループの男子には助けてもらいました。一緒にプレゼンの内容を考え、調べてそれを英語に訳して、

完成することができとても達成感がありました。

実際の発表は、ちゃんと喋り、説明しることができて自分的にとってもよかったんじゃないかな、と思ってます

最後に今回こうしてケンブリッジ研修という、特別な体験をする事で、たくさんの学ぶことが有りました。これからあと2、3年立教という特別な場所で生活していく上で大切なことをこれからの生活にどんどん生かしていき英語を上達させこれからも努力して行きたいと思います。

ケンブリッジ報告書

高等部 1 年 1 組 徳永啓祐

私は、このケンブリッジ研修で英語をいかに上手く英語を使ったり聞いたりするか学びました。学校で英語を使って話す授業は限られていますが、研修中はほとんど英語なのでとても大変な一週間でした。

研修では毎日、午前中は授業をし、午後からはケンブリッジ周辺の街を探索しました。授業は、ケンブリッジの歴史や午後から訪れる場所についての内容、シェークスピアなどについて学びました。午後からは、好きなところへ昼ご飯を食べに行ったり、授業中に学んだ場所に実際に行ってみたりなどと、とても楽しい時間でした。特にケム川でのパンティングでは、小舟でケンブリッジの町をゆったりと回って川から街並みを見ることができました。川から見た風景はとても美しかったです。

ラッキーなことに研修の三日目には偶然エリザベス女王と出会うことができました。

また、五日目の日本文化体験では、茶道、華道、三味線から選べ、私は茶道をしました。茶道では実際にお点前をしました。私は抹茶を飲むのは、今までに何度かありましたが、お点前をするのは今回が初めての経験でした。長時間の正座で足がしびれてしまい辛かったです。無駄のない一つ一つの所作に茶道の奥深さを知ることができました。

特に私がこの研修で一番心に残っているのは、プレゼンテーションを行ったことです。プレゼンテーションの内容は一週間の研修の中で訪れた場所の紹介、ケンブリッジ大学の紹介などを英語で説明しました。特に英国人に英語で話して説明するとなると、とてもプレッシャーがかかり文法の間違いやいかにわかりやすく英語で説明できるかを考え、とても大変でした。しかし、プレゼンテーションが終わると達成感がありました。プレゼンテーション後に英国人の先生方から発音についてや図を使った説明の大切さについてアドバイスを頂きました。今回の研修を通して、普段学べないことや体験できないことがたくさんあり、とても有意義な一週間を送ることができました。そしてプレゼンテーションの必要性や日本の文化を理解し相手の文化も知ることの重要性を感じました。

今後の英国での生活にこの経験を生かしていきたいと思います。

ケンブリッジ研修で学んだこと

H1-2 藤井 若香子

今回のケンブリッジ研修で色々なことを学ぶことができました。

普段の学校生活では外出する機会がなかなかないため、今回の研修では毎日外出ができてケンブリッジの街中やイギリスの文化に触れることができて本当に充実一週間でした。

一週間ケンブリッジ大学について英語で色々なお話を聞きました。ケンブリッジ大学は31個のカレッジがありその総称がケンブリッジ大学だということやケンブリッジ大学出身の小説家や詩人についても教えてもらいました。詩を英語で書くということをしたとき、一から文章を書くとき自分の表現したいことがうまく伝わらず自分の英語のできなさを痛感しました。又、最終日には自分でパワーポイントを作って英語でプレゼンテーションをするということをしました。短くて簡単な文章でも人前で話すときすごく不安で緊張しました。もっと英語を磨いて自分の意見や思っていることを相手に伝えられるようになりたいと強く思いました。

日本文化の体験で生け花をしたときに先生が、

「お花は一本だけでも綺麗で完成しているのにそれをわざわざ切って生けているのだから、お花を生けているのではなくお花を生けさせてもらっている、と言うのが正しいのです。」と教えてくださったのが凄く印象的でした。生け花を通して日本とイギリスのお花に対する考え方の違いを知りました。日本のお花は床の間に飾るため左右や奥と手前のバランスなどを考えるのは凄く難しかったですが、同じお花でも全く違ったように見えて凄く楽しかったです。今回の体験で昔の日本人の謙虚さや上品さを感じて改めて日本の文化のすばらしさを知ることが出来ました。

ケンブリッジで過ごした一週間でイギリスの歴史を知ってもっと沢山の歴史を知りたいなと思いました。3年間イギリスで学べると言う事を活かして此処でしか学べないことを積極的に学びたいと思いました。

ケンブリッジ研修で得たこと体験したこと

H1-2 福島理人

僕は今回のケンブリッジ研修を通して学んだことがあります。それは、ケンブリッジの歴史についてと、人間性です。

まず、ケンブリッジ研修の授業では、イギリスの食事、テーブルマナー、ロイヤルファミリーなどイギリスに関して沢山のことを学びました。イギリスの食べ物の中には、自分の知らない料理があり、さらにイギリスについての知識が増えたという実感がありました。金曜日にはアフタヌーンティーを体験することができイギリス人の日課を学べました。また、授業で学んだテーブルマナーも、夜のフォーマルディナーで意識し、いつかは無意識に出来るようになりたいと思いました。また、授業以外でも学べる場所は沢山あり、美術館に行き、昔の作品から当時の文化を知ることや、昔の人が書いた作品を劇にしたものからも感じる物や学べることが沢山ありました。他にも一緒に研修に参加した人達の行動からも公共の場で大きな声で騒いでいる人を見ると、自分は大丈夫かなと自分自身を改めて見直すことが出来ました。

他にもあの有名な万有引力をニュートンが発見したりリンゴの木のクローンを見ることが出来ましたさすがにオリジナルがまだ存在し続けているはずかないのですが少し残念に思いました。ケム川をボートで往復してケンブリッジの町並みをまた違う角度から見る事ができ風情を感じることができました。ケンブリッジの名前の由来である、周りをケム川で覆われそのケム川に橋がかかったからという話を聞いていたのでそれを実際に見て改めてその通りだなと関心を持ちました。ケンブリッジで研修をする前まではケンブリッジと聞くとケンブリッジ大学しか思いつかなくさらにケンブリッジという町が存在していたことすら知りませんでした、しかし研修を受けてみるとケンブリッジとは町でありさらにケンブリッジ大学という建物は無くコレッジという物が集まって出来た物がケンブリッジ大学だと言うことがわかりました。またイギリスの大学には日本には無いような学部があり、例えば宗教についてなどがあり自分はもしイギリスの大学に進学したら入りたい学部の1つに成りました。

このようにケンブリッジ研修では沢山の事を学ぶことが出来ました。また、この研修で、学んだ得たことを糧にして、これからの自分の立教生活にさらに磨きをかけていこうと思いました。

ケンブリッジ研修を終えて

濱田 恵

今回のケンブリッジ研修を通して、私はたくさんのものを学ぶことができました。1日目はケンブリッジ周辺の大学を見て回りました。ケンブリッジ大学は2019年 Higher Education World University Rankings で世界第2位と評価されるなどハーバード大学、オックスフォード大学等と並ぶほど優秀な大学として評価されており、ノーベル賞受賞者は90名おり、世界で3番目に多く卒業している大学です。「自分がされたいと思うことを他人にもしなさい」それだけを校則としている学校があると聞いて驚きました。それだけで学校が成り立っているということがすごいと思ったし、尊敬しました。2日目は、punting に行きました。12名ほどが乗れるボートに乗ってガイドの方が漕いでいってくれましたとてもレトロな街並みでハリーポッターの映画に出てきそうな雰囲気でした。3日目はケンブリッジの街にある屋台へ行きました。祭り以外で屋台がやっているのをあまり見たことがなく、新鮮でした。韓国料理や中華、果物、ジャンクフードといろいろな種類のものが売っていて楽しめました。その後、博物館に行く途中エリザベス女王に会いました。3メートル以内という距離で女王を見ることができたのはすごいことだと思うし、これからの人生でもう二度となないことだと思うので会えて良かったです。4日目はシェイクスピアを観ました。草の上であんなにも近くで劇を見ることはなかなかないので新鮮でした。プレゼンテーションの発表で私はシェイクスピアについて調べました。シェイクスピアが作った有名な悲劇、四代悲劇のエピソードを調べているうちに共通点を見つけることができました。それぞれ舞台にしている時代や場所、背景は違う中で人間のさまざまな強い感情が描かれていると思いました。シェイクスピアが劇作家以外にも詩人でもあり、俳優でもあったことは初めて知りました。今まで知らなかったことも今回のプレゼン準備や研修によって知ることができ、ケンブリッジ大学で楽しく、充実した時間を過ごすという貴重な経験ができて良かったです。

ケンブリッジ研修

1-2 (7) 堀江紗郁

私はこの1週間ケンブリッジ研修に参加し、多くのことを学んだ。

まず、ケンブリッジ大学のマリーエドワードカレッジに滞在することにより、ケンブリッジ大学での生活を体験することができた。ケンブリッジ大学の歴史等も学ぶことができ、知識を深める事ができた。

この1週間で様々な体験をしたが、特に印象に残ったものがいくつかある。

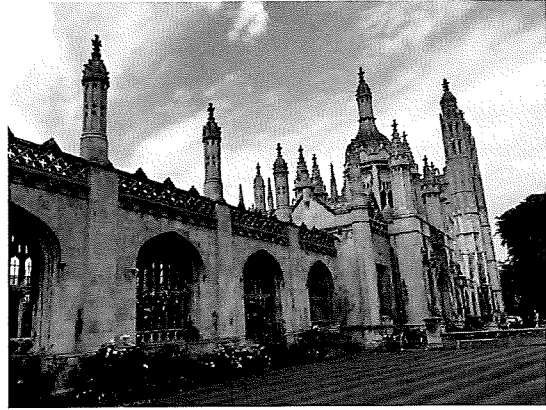
1つ目は初日に訪れた Great St Mary' s Church だ。この教会は 800 年以上前に設立され、今もケンブリッジの中心で町を見下ろしている。内装は本場キリスト教の教会というだけあってとても神秘的で美しく、心が落ち着いた。そこで聴いたクワイヤーの Evensong は透き通るような歌声とオルガンの音色にすっかり聴きほれてしまった。

2つ目は4日目よるに観劇した A Midsummer Night' s Dream だ。私は全て英語の劇を観たのは初めてで、セリフ等を聞きとれるか不安だった。しかし、劇というだけあり、その上とても近い距離で演じていたので物語の流れをつかむことができた。難しくてもこのようなところから、頑張って英語を聞きとろうという努力をすることができたので、これからも英語の勉強に励もうと思う。

3つ目は最終日に体験した Afternoon tea だ。Afternoon tea はイギリスの伝統的な喫茶習慣であり、イギリスに行ったら1度体験するべきだとも言われているものだ。私も1度は経験してみたかったので今回行くことができて良かった。本場イギリスでとても美味しい Afternoon tea を体験できて嬉しかった。

又、5日目に体験した Japanese Culture では、私は茶道を体験した。私は以前からお茶に興味があったものの、1度もやったことがなかったので今回貴重な経験ができた。そこでお茶を教えてくださいましたのは、この研修期間中に私たちのサポートをして頂いたアダムさんときみえさんだった。お二人ともとても丁寧に1から指導してくださり、分かりやすかった。そして私はそこから日本文化を海外で学ぶことの大切さを改めて実感することができた。海外で日本の文化を広め、現地の人々に伝えるのは私たち日本人しかいない。そして海外で日本の文化を学ぶことは日本の文化が様々な国に広がり、日本のことを沢山の人に知ってもらうことに繋がる。私は、人間は異文化を互いに学ぶことによって、より良い世界になるのではないかと考えているので、今後自分も海外で日本の文化を広められたらと思う。

この1週間は本当に多くのことを学び、イギリスの文化・歴史を知ることができた実りのある研修となった。又、英国人の先生の授業を毎日受け、毎日英語が飛び交う町へ行くことで自然と英語の世界に慣れていった。そして、プレゼンテーションや劇をやったことにより、少しでも自分の英語力が上がり、更に興味を持つことができた。今回の研修で学んだひとつひとつを心に留め、今後も英語の学習に励みたいと思う。



ケンブリッジ研修

高等部 1年2組 五十嵐 るい

初日は、ケンブリッジについてたくさん学ぶことができました。ケンブリッジから卒業した有名な方々をたくさん紹介されました。

Pupere brooke という有名な作家さんは、たった 27 歳で亡くなりましたが、たくさんの Edwawdian Romantic poem を書きました。例えば、『If I should die ,think only this of me.That there's some corner of a foreign filed.That is forever England.』この詩を見てわたしは、彼はすごく自分の国を愛している人だと思いました。

また、わたしが知っている有名な人物、例えば、Newton もケンブリッジから卒業しました。

ケンブリッジは、つい最近(戦後)、女性たちにも学ぶチャンスを与え、教育を受けさせ、卒業証書がもらえるようになりました。今では3つの女子大が存在しています。

現在、ケンブリッジには、たくさんの国から来た人々が、異なる価値観、視点を持ちケンブリッジで学んでいます。

午後は、初日で学んだことを踏まえて、いろんな college へ行きました。中でも一番印象的だったのは、Saint John's college school です。ここではたくさんの国から来た優秀な歌声の持ち主たちが揃っているところです。College だから大学生しかいないと思っていましたが、高校生もいました。実はケンブリッジの college は大学を指しているわけではなく、たくさんの college をまとめたのがケンブリッジ大学でした。だから、college は学年関係なく一緒に学べる場所だったのです。



二日目には、グランチェスター(Grantchester)について学び、punt に乗りました。長い川を下りながら、たくさんの教会や college を見ることができました。自然の中に、長い歴史を感じさせる建物が並び、とても美しい風景でした。

三日目、先生が簡単な英語と面白いしぐさで、エジプトの物語と Greace (ギリシャ)について教えてくれました。先生は簡単な英単語を使ってくれたので、私はすごく勉強になりました。

The last of England という絵が、わたしの中ではすごく印象的でした。絵の中のこっそり出ている赤ちゃんの手についての話や、この絵の歴史などを知ることができました。とても興味深い話でした。午後では、その実物の絵を見に行きました。

昼食は、DNA が螺旋状であることが判明した『The eagle 』で食べました。イギリスの文化をととても感じられる場所でした。

夕食後、私は今回のプロジェクトを担当してくださった peter 先生と、英語で交流してみました。こうして交流をしてみて、やはり相手に自分の思いが伝わっているか心配になりました。そこで、先生に直接聞いてみたところ、普通に伝わっていたようで安心しました。「もっと他人を使って、交流していけば必ず英語は上達しますよ」とアドバイスも頂きました。

四日目では、Shakespeare について学びました。彼は 200 個の英単語を作った作家でもあり、actor でもありました。彼が作った物語が午後に演出されました。劇のセリフや仕草がとても印象的でした。作品はすごく複雑な三角形関係で、解説がすごく難しかったのですが、すばらしい演技により、内容を理解することができました。彼の作品をこれからも学んでいこうと思います。

最終日では、プレゼンテーションの発表がありました。今回のケンブリッジの研修で学んだ、『簡単な英語を使って相手に伝えること』を踏まえて、自分なりにわかりやすい英語を使いました。

その後、またイギリスのスイーツを食べに行きました。アフタヌーンティーというイギリスの食文化についても、学ぶことができました。

あっという間に、研修は終わってしまいました。大変有意義な時間が過ごせたと思います。これからも、いろんな英国人と交流をして、たくさんのことを体験し、吸収したいと強く思いました。



ケンブリッジ研修レポート

H1-2 飯田大智

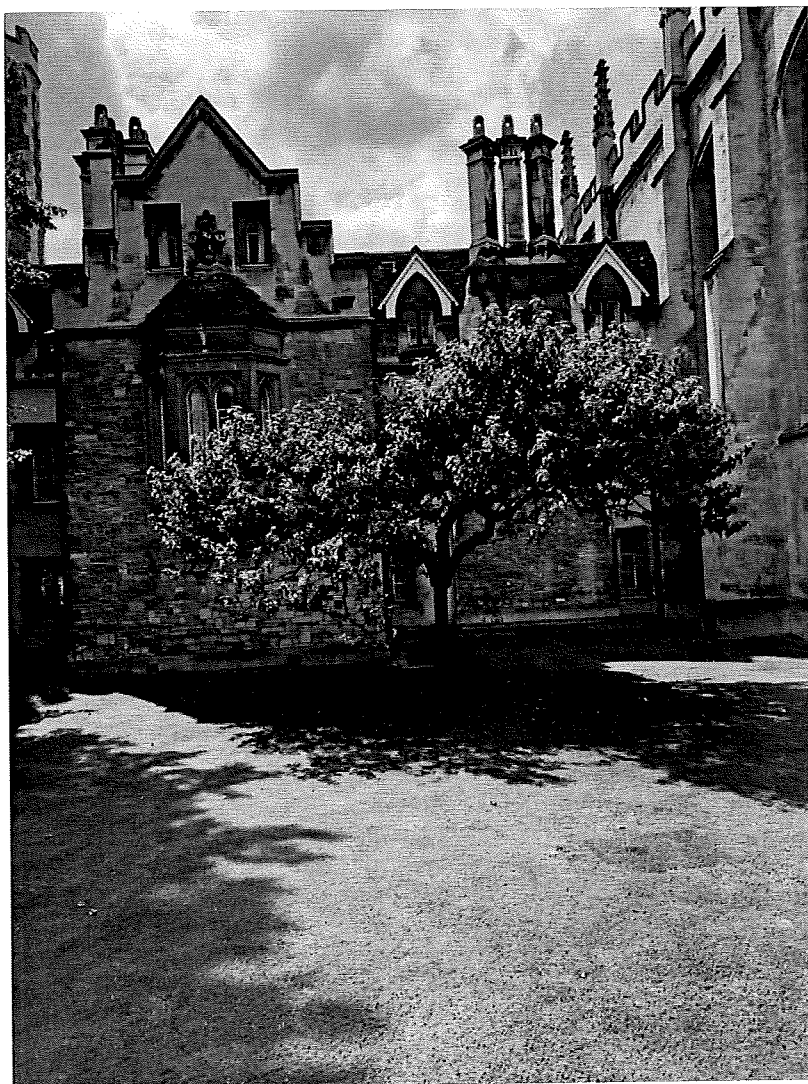
私は夏休みの前に一週間ほどケンブリッジ研修に行きました。研修に行く理由は英語に力をいれ、普段イギリス人がどんな環境で生活しているかや、ケンブリッジの街に行き楽しみたいという気持ちがあったからでした。敷地内にある嘉悦ケンブリッジ教育文化センターに泊まり、到着してから大学内の説明やセンターの歴史を知りました。また、海外の大学内に日本人が作った日本文化を体験したり、日本料理を楽しむことができる専用のセンターがある事に、日英関係がより良好になってきたことを感じました。

初めて訪れる地に少し戸惑いや不安を感じましたが、出迎えてくれたピーターさんの満面の笑顔で少し気が楽になりました。

私たちが行ったマリーエドワードコレッジは女性だけの学校で、他に二つの大学が女性を受け入れています。この大学は、31あるケンブリッジ大学の中の1つで、60年以上もの歴史があります。今回はその大学の歴史、文化を体験して感じたことをまとめていきます。

ケンブリッジでは世界中の国から生徒や先生がやってきます。特に中国人やアメリカ人です。ピーターさんの話では、ケンブリッジ大学はオックスフォード大学での意見の食い違いにより分裂したもの達が作りしました。また、ケンブリッジ卒の人たちの中には、ノーベル賞を受賞した方が、96人もいます。著名な卒業生では、ダーウィンやアイザック、チャールズ、ニュートンがいます。





上の写真はニュートンのリンゴの木の子孫です。「万有引力の法則」を発見した事で有名です。元祖のリンゴの木が枯れてしまう前に接木をしたそうです。ここに設置されているのは、ニュートンが、かつて勉学に勤しんでいた時の部屋が前方にあるからです。

街中を横切るケム川ではパンティングというボートが流行っており、今回はそれに乗って風景を楽しみました。もともとはケム川とその橋をとってケン（ム）ブリッジと名付けられました。ややボートに乗る時間が短かった気がしますが、滅多にない体験をし、十分に街を堪能することができました。

研修中、特に印象に残ったのはチャペルです。立教では毎日朝に礼拝があります。礼拝は聖歌を歌い言葉を淡々と言いますが、市内での礼拝はもっと本

格的で誰もが気軽に入れるようなカジュアルな感じでした。聖歌隊の歌はとても綺麗で、奥のステンドグラスからは歴史的なものをかんじられました。普段は体験ができないことをして、貴重な時間を過ごすことができました。

この研修で私は多くのことを得られました。ケンブリッジの歴史や文化だけでなく、日本との見方の違いや自分に今足りないもの、この夏休みでしておきたいものを見つけました。一週間をケンブリッジで過ごして、日本との違いを体感し、どんなところが長所なのか、今まで日本にいて気づかなかった事が分かり、改めて日本とイギリスの良さがわかった気がしました。今回研修に参加できてとても有意義な時間を過ごすことができたと思います。

ケンブリッジ研修を通して

H1-2(10)飯島圭織

この1週間で1番養われたと思われる力は、リスニング力と集中力だ。ケンブリッジ研修は毎日午前中に3時間近くの講義があった。立教英国学院でも、英国の先生が行う授業やバイオロジーなどはあるが、ここまで長くはないし、翻訳してくれる先生もいなかった。少し聞き逃したり、ボーとすれば、一瞬で話について行けなくなる。そうするとどんどん遅れて、頭に入ってこない。最初の私はこの様な感じだった。興味のある事は頑張って話を聞こうとしたり、講義の最初は集中できるのだが、最後になってくるとどうもボーとしてしまう。英語が右から左にただの音として流れて行くのだ。先生の言っている事が分からず、ただ周りに流されて授業に参加している事もあった。しかし、これではいけないと週の半ばに考える様になった。そして、自分が研修に参加した目的、英語をもっと伸ばしたいという気持ちを思い起こした。それからは自然とボーとする事も少なくなり、少しずつ先生の話も聞ける様になった。また授業では、ケンブリッジ大学の歴史やシェイクスピアの劇を実演したり、ロイヤルファミリーを学んだ。そして、私がこの研修で1番印象に残っているのはプレゼンを行なった事だ。これはとても良い経験になったと思う。自分がこの1週間で感じた事やケンブリッジの紹介を英語で行うのはとても難しかった。だが、今までの知識を総動員して、辞書を駆使して原稿を書き上げたときは達成感で満たされた。プレゼン後にあちらの先生からお褒めの言葉を頂いたり、アドバイスを頂いたりした。そこで気付かされるものもあり、友達の発表から新たな気づきを得ることも出来た。イギリスにいるからこそ学べるもの、普段は体験できない様な事も出来て、とても有意義な一週間だった。

また、私は最近自分の将来や夢、行きたい大学などを考える様になった。今までは日本の大学の事しか候補に上がることはなかったのだが、立教英国学院に通う様になってからは海外の大学も良いのでは、と思い始めている。だから今回のケンブリッジ研修は、海外の大学の雰囲気や勉強方法などに触れられる良い機会となった。そして、今の自分に足りないもの、ケンブリッジ大学で求められる critical シンキングをこれから養っていかなければならないと分かった。

今回この研修に参加して思った事は、自分自身、もっと様々な事に興味を持ち日本についても知らなければいけない事がたくさんあるという事だ。グローバル社会で生きていくためにはまず、日本を知る必要があるのだ。そして誇りを持って日本の魅力を海外に発信していかなければならない。これが出来て初めて、私達は物事の見方を広げていけるのだと思う。だからこれから私は、新聞やニュースを一杯読もうとも思った。色々なことに興味を持ち、物事を深く考える姿勢を身につけていきたい。時間は掛かるだろうが、習慣づけられていったらな、と思う。自分の課題を見つけられた1週間だった。



ケンブリッジ研修

松本 宗一郎

研修一日目は、ケンブリッジの中でも有名なグレートセントメアリー教会の礼拝を体験しました。当然ですが、予想以上に聖歌隊の歌の完成度が高かったので驚き、現地でないと経験できないということがすぐにわかりました。また日本にはないコレッジ制度といって、入試で3教科をベースとして得意なもので競えることの説明を受けました。インター校の経験でその制度について知っていましたが、それよりも詳しい事を知ることができました。

二日目は、バンティング(川下り)を体験しました。これは、研修の中でも印象に残り楽しめました。

三日目は、予定外でしたが、エリザベス女王二世に遭遇しました。イギリスに住んでいても生で見るのがないので、レアな状況でした。インター校そして立教での食事中のマナーが今回のフォーマルディナーで役に立ったことも実感できました。

四日目は、「シェイクスピア作・真夏の夜の夢」の劇を観に行きました。午前中にあらかじめ内容をケンブリッジの教師に習ったので楽しさが増しました。またシェイクスピアについても少し習うことができ、シェイクスピアは、高校、大学にも行った経験はないのに高度な文法を使えるということにも驚きました。劇は本格的で後半が面白いと感じました。

五日目は、三味線の体験と発表を行いました。またヨーロッパで唯一のプレイヤーというプロで、どのテクニックも早く理解でき、演奏できました。発表では、正直上手くできなかったけれど、練習で弾けたことなど親、友達に教えたいです。

そして最終日の六日目、A・Bグループに分かれこの研修についてプレゼンしました。ケンブリッジのステージでプレゼンということで緊張し、上手くできなかったと思いますが、そのポイントも忘れず将来同じミスをしないよう繋げていきたいです。たくさんの人の支えがあることも自覚しながら自分の高校生活にこの研修を糧としたいと思います。

ケンブリッジ研修

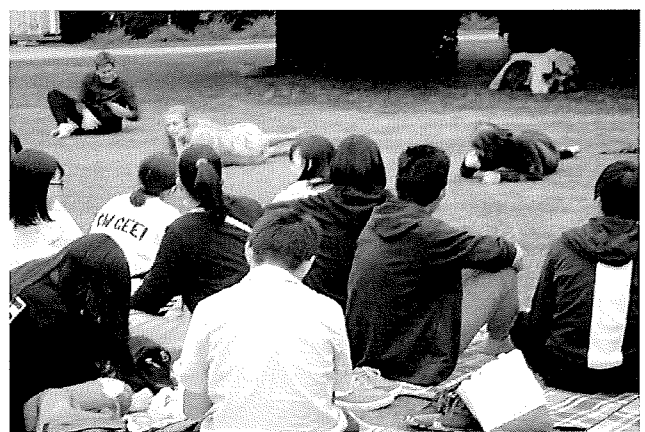
H1-2 西 絵莉香

今回のケンブリッジ研修は私にとってとても良い経験となりました。普段と違うイギリスを見ることができました。現地での礼拝なんて学校のときに一回行っただけでクワイヤーのいる礼拝なんてでたことがなかったからとても新鮮でした。自由時間は普段の学校生活では考えられないほど自由時間があり、新しいイギリスを見ることができました。

授業では主にケンブリッジ大学の歴史やシェイクスピアの劇を実演したり、ロイヤルファミリーのことを学び、一週間の授業の終わりにはイギリスで私たちが学んだこと、経験したことをプレゼンにしてみんなの前で発表し、現地の先生からアドバイスやお褒めの言葉を頂くことができました。全て英語で文章を構成し、プレゼンのスライドを短い期間で作ることはとても大変でしたが発表した時の達成感は今でも覚えています。そこで友達の発表を見て新たに気付かされることも多々ありました。普段イギリスにいらながらも経験のできないことができたのでとても貴重な経験となりました。

私はこの経験を通して英語力をもっと伸ばしたいと思うことができました。今までは日本の大学に進学したいと思っていたのですが海外の大学に進学して英語をもっと学びたくさんの経験、学びをしたいと思うことができました。世界で活躍できるようなグローバルな人になりたいと思います。

今回のケンブリッジの企画を考えたくださった先生方、嘉悦センターの方々、良い経験となりました、ありがとうございました！



私は一日目ケンブリッジ大学の歴史や学部について話を聞きました。私は海外の大学は留学生が多いイメージを持っていましたがイギリスの大学に行くには日本の教育とは違うイギリスの教育を受ける必要があるのでは私が思っていたよりも留学生が通うことは難しいことに驚きました。しかし実際大学内には様々な国籍の人が一緒にいて日本の大学では珍しい光景だと思いました。

二日目は大学の施設や伝統的な文化について英語で授業を聞き特にケンブリッジ大学にある三十一のカレッジの話で三十三人のノーベル賞受賞者を出しているトリニティカレッジの話が印象的でした。

三日目はフィッツウィリアム博物館に行き古代エジプトの棺やモネの春の頃など日本でも聞いたことのある作品も見ることが出来ました。また絵画に詳しくなくても授業で背景にある戦争や迷信を学べたため良かったです。

四日目はシェイクスピアの劇を見に行きました。始めは英語でストーリーを理解するのが難しかったですが身振りや会話を中心に聞いて内容がわかるとすごく面白かったです。日本でも劇を見たことがありますが屋外で行いキャストと近い距離間で見られたため臨場感がありいい経験になりました。

五日目は英語劇を行いました。なるべくすらすらよめるようにすることで精一杯だったので次やるときは発音を重視できるようにしたいです。台本には知らなかった英語もありセリフを覚えることはあまりないのでいい機会になりました。

六日目はプレゼンテーションを行いました。フィッツウィリアム美術館についてまとめ設立された背景やコレクションについて説明しました。パワーポイントが間に合わず完璧な状態でなかったためきちんと作り直したいです。

七日目は最終日だったのでピーターさんたちにお礼を言いカエツセンターを出ました。外で英語を使う機会が短期間でこれだけあることは少ないと思うのでこの経験を忘れないようにしたいです。